



YAMANASHI EIWA
COLLEGE

かけはし



Contents

学長・後援会名誉会長メッセージ	01
後援会長あいさつ	02
本学におけるキリスト教教育について	03
学生生活について	04
附属図書館より新システムについて	05
進路情報	06
学生相談室だより	07
保健室だより	07

学生会紹介	08
紅楓祭実行委員会紹介	08
新任教員紹介	09
教員紹介	10
2024年度後援会総会報告・理事紹介	11
2023年度決算書／2024年度予算書	12



朴 憲郁

学長
後援会名誉会長

「英和の価値を輝かす高等教育を」

今、例年にも増す酷暑の夏を過ごしていますが、梅雨の雨水と太陽の強い光を浴びて、葡萄の蔦は畑から飛び出して道路側にはみ出す勢いでよく伸びて、秋の実りに備えているかのようです。私の住まいの周囲は葡萄畑で、そこをウォーキングしながら通るたびに、逆境に抗して逞しく育つ自然の生命力を強く感じ取ります。

例年にも増す酷暑の夏であっても、勢いよく伸びているもう一つの現象が英和大学に見られます。それは、4月から8月初旬までの段階ですでに5回実施したopen campusへの来校者数です。本大学および大学院への入学に関心を寄せる高校生および同伴の保護者が例年に比べて予想より増えて、ある時には倍増近くにまで達します。全国どの国公立大学も受験生も、できれば12月末までに合否を決めておきたいと考え、大学としては入学者確保のために困り込みたいと願う傾向が強まっています。18歳人口激減でどの大学も定員確保に凌ぎを削る状況下において、同じ思いを抱く本学としては、一喜一憂するわけにはまいりませんし、定員割れを克服して定員確保につながるかどうか見守る必要がありますが、今年のopen campusの活況ぶりを喜ばしく思わずにはられません。英和大学固有の価値と魅力を来校者に懇切丁寧に紹介するプログラムを提供し、ランチを一緒に囲んで語り合う有意義な半日を過ごしていただくことに尽力しています。英和の看板は大学生たちの振る舞いとトークです。大学での多様な研究領域やキャンパスライフに満足し誇りに思っていることを、在学生が対話形式で証しするその姿に、来校者は新鮮な興味を抱いたことでありましょう。

毎年行っている地味な活動の一つが先日の山梨日日新聞に掲載されました。それは附属図書館が、司書の仕事や図書館に興味がある高校生を対象にした職場体験実習を同館で行っていることです。7月22日から8月2日まで実施し、期間中に県内16校から50名ほどが参加しました。その間のある日の午前、担当職員が10名の参加者に対して、本の貸し出しや返却や書架の整理、貴重図書の管理などの業務について説明した後に、高校生たちがそれらの作業の体験学習をしました。私もその様子をそっと窺いました。学問研究の中核部分である図書館の業務に、バイト学生だけでなく、ボランティアサークルも協働して自らも学ぶのですが、このことが最近、山梨県図書館関係者の間で注目となっています。

2年に一度7月末から1週間開催される国際宗教教育学会 (ISREV) に、私は会員として参加し発表しますが、24年前には7月末から一週間、イスラエルのエルサレム近郊のキブツホテルで開催され、100人ほどの参加者によって「平和教育」をテーマとする各種発表がなされました。とても大切なテーマです。終了後、1週間ほどエルサレム、エリコ、死海、ナザレ、ガリラヤ湖畔、ゴラン高原など、旧新約聖書にまつわる名勝、遺跡を同僚の学者たちと巡りました。日中は炎天下の40度を超えていましたが、不思議と聖地を訪ねる意欲と健康が私にはまだありました。困難な課題が山積していても、前途を見渡すヴィジョンを神より授かるならば、主の御心によって建てられた山梨英和学院と大学は、固有のキリスト教教育的価値を輝かして、地域と国際社会にかけがえのない貢献を今後も貫いていけるに違いありません。

陰に陽に背後から支えてくださる後援会員の皆様に心から感謝しますと共に、一致協力して、若い人々の育成に励んでまいりたいと願う次第です。



飯島 正敏

後援会長

互いを受け入れ合う「友」の存在

ウィズコロナからアフターコロナの時代となり、コロナが存在しなかったビフォーコロナの時代の日常を取り戻していくのだろう。私はそういった安易な考えを抱いていましたが、今もなお、私たちはウィルスの脅威にさらされ続けているとつくづく感じます。その一方で、コロナ禍におけるステイホームの要請により、情報化社会が急速に発展しました。とりわけ、オンライン上でのコミュニケーションが可能になり、私たちは今もその恩恵を受けているのは過言ではありません。遠方に出かけることなく会議に参加することができ、画面上で参加者の表情を見ながら自らの意見を発言することができるのです。家にいながらそのようなことができるとは本当にありがたいことであり、昔は全く想像できませんでした。

私は大学時代にアマチュア無線のサークルに所属し、日本全国のアマチュア無線の愛好家たちとコミュニケーションを取っていました。自分が社交的な性格で見知らぬ人との会話に抵抗を感じなかったということもあり、大学卒業後も趣味として続けました。もちろん、スマートフォンのビデオ通話とは異なり、無線での通話中に相手がどのような表情で応答しているか、全く分かりません。しかし、アマチュア無線という共通の趣味を通して、見ず知らずの人とつながることができることの素晴らしさを身に染みて感じました。電波環境などの問題もあったため、機器の設定は容易ではなく、今では全く考えられない不便さがありましたが、人と人が知り合うことをより貴重なものとして捉えていたように感じます。

スマートフォンで瞬時にあらゆる情報を入手でき、自分で文字を入力しなくてもスマートフォンの音声認識システムが要求を満たしてくれます。アナログ人間であるとはいえ、私も少なからず、その恩恵を受けて生活しています。便利な社会になりましたが、情報化社会の弊害も見受けられます。SNS上でのフェイクニュースの拡散により人々が混乱に陥ること、誹謗中傷の書き込みをすることで人々を侮辱することなどが挙げられます。自分の意見を気軽に発信することができるようになった一方で、相手の気持ちを尊重せずに身勝手な言動を行い、自らの言動に責任を持たない人がいるという風潮があります。なぜこのようなことが起こってしまうのだろう。毎日ニュースを見聞きしていると、いたたまれない気持ちになるのは私だけでしょうか。便利だけが追求されている現代社会において、何か欠落しているのかもしれない。私は近頃、そのようなことを痛感しているのです。

皆さんにとって友とはどのような存在でしょうか。今は多種多様なツールがあるため、対面での出会いだけでなく、SNS上を通じて知り合った友人や、SNS上だけでつながっている友人がいるでしょう。学校や職場などといった所属という枠を超えた様々なコミュニティが形成され、年齢や性別に関係なく自由に交流することができるようになりました。しかし、人間同士の関係性が希薄になりつつあります。人と知り合い、コミュニケーションを取ることがあまりにも容易になったことで、人との出会いの大切さが軽視されているのかもしれない。対面以外でのコミュニケーションの場が生まれたにもかかわらず、互いを傷つけあうという悲しい出来事が起きているのは本当に残念なことです。

私の好きな讃美歌は『讃美歌』312番、「いつくしみ深き」です。『讃美歌21』では、493番で「いつくしみ深い」とされています。原題は「What a Friend We Have in Jesus」、直訳すると「私にはなんと素晴らしい友がいるのだろう」という意味になります。イエス・キリストが私たちの全てを受け入れてくださったように、一人一人が互いの存在を受け入れ合い、世の中における憎しみや争いがなくなることを切に願っています。

2024年度チャペルアワーの風景から

宗教主任 永井 英司

毎週火・水・木曜日10時40分から11時迄の間、グリーンバンクホールではチャペルアワー（大学礼拝）が捧げられている。宗教主任の司会により、近隣教会の牧師、本学教職員、学生有志が中心になって奨励を担当して下さっている。礼拝メッセージは聖書を中心に置きながら、各自の研究内容や、学生時代の経験など多彩な内容が提供され、大変豊かな時を分かち合うことができている。このような大学礼拝は「本学の建学の精神を真に命あるもの」として共有し合う唯一の時として受容され、多くの学生・教職員が集い、共に讃美と祈りを捧げる時となる日が1日も早く来ることを願って止まない。

ここで、ある日のチャペルアワーの様子を紹介させて頂く。奨励者は「キリスト教の神は創造主」と題したメッセージを伝えた。日頃から礼拝に出席した学生たちは、メッセージに対する感想や意見をコメントシートに記して提出する。その日は、「神の意志でこの宇宙や人間が存在すると思いを初めて知った」「創造論は信じられないが、信仰は必要だと思う」「神は世界を創造されただけでなく、愛を持って保持して下さっているということを知り、人生が有意義に思えた」「いかにキリスト教が現代の自分たちの世界観に影響を与えているのかが分かった」等々、興味深い感想を寄せてくれた。教室とはやや異なる記述を見る度に、出席学生たちの感性の鋭敏さを識らされる。そして、創立以来継承されて来ている「大学が定める礼拝」の価値性とその重要性を覚えさせられる。

さて、礼拝において「前奏・讃美歌・後奏」が捧げられるのはご存知の通りである。本学の礼拝において、これらはオルガンで演奏される。礼拝参加者から「チャペルアワーで奏でられていた楽曲は何という曲名か?」と、訊ねられるほどオルガンの音色が心に響く。グリーンバンクホールに溢れる音色は、オルガニスト五味恵美子氏が弾くフランスのマルク・ガルニエ社製作のポジティブ・オルガン（移動可能な小型パイプオルガン）から奏でられている。このオルガンは2002年に山梨英和学院後援会より寄贈されたものと聞く。本学の学生たちに伝統的なキリスト教音楽のすばらしさを実感してもらおうと捧げられ、グリーンバンクホールに設置された。一見すると小さな木箱のように見えるが、中には何と200本を超える鉛合金製のパイプが組み込まれているとても繊細な構造を持つオルガンである。

年毎の調律を兼ねた保守点検は継続されてきている。設置以来、20数年の時が経過したこともあり、特に本年度は、夏



季休業中を活用して、オーバーホール（オルガンの中を丁寧に取り出し、掃除、消毒、点検、必要な修理などを行い、新しい状態に戻すよう調整する。）を行う運びとなった。7月末現在、オルガンは河口湖近くにあるガルニエ社の工房に移されている。9月初めには、グリーンバンクホールに戻ってくる予定である。秋 Semester からのチャペルアワーは元より大学の諸行事においても、以前にも増して美しい音色を響かせてくれることを楽しみにしている。因みに、聖書（ダニエル3:7他）の中には、様々な楽器が礼拝に用いられていたことをうかがわせる記述がある。その一つに「^{ふうきん}風琴」がある。管見でしかないが、これが今日のオルガンの原型ではないかと想像し、礼拝の歴史とオルガンの深い繋がりに想いを馳せている。



ポジティブ・オルガン

さて、ミッションスクールにおける礼拝の位置付けは、大学の存在の根拠を証する業と言っても過言ではない。大学礼拝は、学生たちがより豊かなキャンパスライフを送るための、「縁の下の力持ち」とも言えよう。学生は礼拝に与かることを通して目には見えない「内なる促し」を受け、一人一人が新たな一歩を踏み出すことができるようになるのだ。本学が授業とは別に設けている礼拝にこぞって臨み、本学に集う者に相応しく、日々喜びに満ちた歩みを続けて行って欲しいと願う次第である。

学修サポートデスクの稼働 ～ 学生が学び合う環境をつくる～

副学長・人間文化学部長 難波 道弘

本学では毎年4月、新入生に入学時アンケートを行っています。その中の設問に、「大学生活で心配なこと」（複数回答可）とあります。今年度特徴的だったのは、全体の76%が「学業」を選択していたことです。過去の回答率の平均と比べても10ポイント以上高い回答であったことを踏まえれば、学生が大学の勉強についていけるかを不安視していることが改めて明らかになりました。これまで、一部の授業時にSA（受講学生を支援する学生スタッフ）を導入しているものの、授業時間外の学生サポートが十分できているとは言えない状況でした。

そこで、去年の後期から本学の学生が中心となって学修支援を中心とした学生サポートを行う「学修サポートデスク」を立ち上げました。主に心理学、数学など学生がつまづきやすい分野を中心に、授業時間外に相談に来た学生をサポートしてもらうというものです。スタッフのほとんどは上位学年の学生が担っています。直接教員には聞きづらい

と感じている学生などにとっては大きな助けになっていきます。今年の前期では対応スタッフを拡大し、大学院生にも多くスタッフとして関わってもらっています。学部生にとっては、大学院という場を身近に感じられるようになり、進学を目指す学生が進路の相談もしていると聞いています。

学修サポートデスクの効果は利用学生だけでなく、学生スタッフ側にも大きいと思います。授業のすき間時間をアルバイトに充てられるというのはもちろんですが、安易に答えを教えるのではなく、解決に導くためのヒントを与える指導力などを身につけることができます（人に教えることで自身もさらに理解を深められます）。実際に学生スタッフの話では、「教えている立場ではあるが、自分自身が学ぶことも多い」と聞きます。

学生同士が学び合う場である学修サポートデスクは本学の建学の精神を体現しているのではないかと感じます。もっと多くの学生が集う場となることを願っています。

高度な心の専門家を養成する大学院教育 副学長・大学院人間文化研究科長 高橋 寛子

山梨英和大学大学院は、臨床心理学専攻の一専攻のみで、臨床心理士・公認心理師という高度な専門性を備えた心の専門家の養成に特化した大学院です。毎年、入学選抜で3倍以上の倍率をくぐり抜けた者たちが、明確な目的意識を持って学んでいます。本学出身学生が約半数ですが、半数は国公立大学を含む全国の大学出身者で、社会人経験者も複数含まれています。約20年前の創設以来、本学大学院は「臨床心理士」養成教育において高い評価を得てきましたが、5年ほど前に国家資格化された「公認心理師」においても、毎年現役生の合格率100%を誇り、着実に歩みを進めています。

院生たちの生活は極めて多忙です。講義や演習・研究活動に加えて、実習に充実した毎日を送っていることが特徴と言えるでしょう。学内には地域に開かれた外来カウンセリング機関の「心理臨床センター」（有料）が設置されていますが、そこには4、5歳から小中高生、成人、中高年に至るまで様々な心のテーマを抱えた方々が心理面接を求めて訪れ、年間700～1,500の面接の多くをスーパーヴァイザーの指導を受けながら院生が担当しています。

加えて、病院・学校・福祉施設での実習や夜間電話

相談など、多分野での多様な実習から実践的に学んでいます。特に毎週全院生・教員で2時間にわたって行われる事例検討（ケースカンファレンス）では、生きた心に向き合うための厳しくも深い学びを体験します。その中で自らの心に向き合うことも求められるため、2年間の院生生活では、知識や研究、心理技術の向上だけでなく、人間的な成熟も遂げていく様子が見られます。

今年度は、中部／甲信地域心理臨床五大学院（愛知教育大学大学院、岐阜大学大学院、静岡大学大学院、信州大学大学院、山梨英和大学大学院）心理臨床合宿研修の主催校が本学であることから、9月には総数約100名の院生が本学に集って互いに研鑽する機会を持ちます。院生たちは夏休み中も修論研究に加え集中講義、心理臨床センターでの面接、スーパーヴィジョン、電話相談、外部実習などの訓練を重ねつつ、多忙な中で五大学院研修会の準備を進めています。高度な心の専門家となっていく道のりは長く険しく、2年間の大学院教育のみで終わるわけではありません。しかしその道を歩き始めた山梨英和大学大学院院生たちは、日々たくましく確実に成長しています。

新しい図書館システムの導入による学生支援の充実 附属図書館長 佐柳 信男

附属図書館の今年度の最大のニュースは、新しいシステムが導入されたことです。「図書館システム」に馴染みのない方も多いと思いますので、簡単に紹介します。図書館システムは、蔵書や貸し出しの管理のほか、蔵書の検索などでもできる図書館に関連する情報を一括して管理するものです。以前のシステムと比べて、6月から運用を始めた新システムは、いくつかの点において優れていて、学生の学修と研究の利便性が高まっています。

まず、図書館ウェブサイトの画面がスマートフォンにも対応するようになりました。従来もスマートフォンからのアクセスは可能でしたが、画面がPCと同じで横長の画面であったため、使い勝手が悪い状態でした。新システムではアクセスしている端末の画面に合わせてサイズを調整するので、スマートフォンでも快適に文献の検索などのサービスが利用できるようになりました。図1にPC画面の表示、図2にスマートフォン画面の表示を示しました。また、以下に図書館ウェブサイトのリンクを示しますので、興味があればぜひアクセスしてみてください。

URL <https://library.yamanashi-eiwa.ac.jp/drupal/>

また、新システムの蔵書検索が以前よりも高性能になりました。以前のシステムではできなかった「関連度検索」が可能になり、学生の検索したテーマについてAIが判断してより重要な文献が上位に示されるようになりました。さらに、本学に所蔵されていない雑誌や書籍を他の図書館から取り寄せる利便性も向上しました。従前のシステムではできなかった個人アカウントと文献情報を連動させ、アカウントから直接取り寄せが申し込めるようになりました。学修と研究は資料を探すことと取り寄せることに多くの時間を割くので、新システムは時間短縮と学修・研究の充実に貢献します。



図1 / 図書館ウェブサイト画面 (PC)



図2 / 図書館ウェブサイト画面 (スマートフォン)

附属図書館では、この他にも学生の学修と研究、教員の教育と研究、さらには地域社会へのサービスの向上に力を入れています。本学の司書課程は人気のコースで、県外からも志望者が入学しています。また、毎年夏には高校生向けに図書館の職場体験を実施していますが、毎年その参加者が入学してきていて、それらの学生の学修のサポートに力を入れています。こここのところ毎年県外の有名な図書館の見学会を実施しており、今年3月には約20名の学生が東京の日比谷図書館の見学会に参加しました(図3)。また、5月29日には2023年度卒業生で甲州市立塩山図書館司書の満田咲希さんを招いての図書館セミナーを実施し、約20名の学生が参加しました(図4)。



図3 / 日比谷図書館見学会の参加者たち



図4 / 5月29日図書館セミナーの様子

司書課程の学生が多く参加する学生協働活動サークルLIKEは県内外で注目されています。8月10日には山梨県のやまなし読書活動促進事業が主催する「やま読フォーラム」にて、LIKEのメンバーが招聘されて活動報告をしました。また、9月22日に開催される全国の図書館を集めた第55回大学図書館研究会の「学生協働の現在」と銘打ったシンポジウムに招聘されて本館司書がLIKEの協働活動について報告します。

附属図書館では、引き続き大学図書館ならではの機能や役目を果たせるよう、学生が積極的に訪れたい、学びたいと思えるような学生サポートを全力で支えていく所存です。

学生たちの活気を間近に感じて

学生相談室 主任カウンセラー 設楽 友崇

今年7月、学生会が主催する七夕のお祭りでキャンパスが一日賑わいました。中庭には射的やかき氷などの縁日屋台に並び人や吹奏楽や軽音やダンスのステージを楽しむ人が大勢いました。グリーンバンクホール前ではクワイヤやハンドベルサークルの綺麗なハーモニーに多くの人が耳を傾け、学内には朝から夕方まで浴衣の人が行き来していました。相談室では例年と同じく部屋の前に笹を飾りましたが、そちらも準備した短冊120葉が全てなくなるほど盛況でした。また、久しぶりに浴衣更衣室として活動スペースを学生に貸し出したのですが、隣の部屋から楽しそうな声が幾度となく聞こえてきて、学生たちの生き生きとした様子を感じながら嬉しい気持ちで仕事をすることができました。コロナ禍で不自由を強いられてきた学生生活が、4年経ってようやく軌道に乗ってきたという実感を持ちました。

学生たちの活気を感じるもう一つに留学生の増加があります。こちらもコロナ禍で一旦ガクンと減りましたが、ここ数年コロナ禍の落ち着いたきと共に、海外からの受け入れ学生も海

外への送り出し学生も少しずつ増え始めました。留学は人生に大きなインパクトを与える体験ですので、相談室では受け入れと送り出しの両方でオリエンテーションを分担しています。4月には受け入れの留学生たちを招き、相談室の紹介をした後で坊主めぐりをして遊びました。また、送り出しの学生たちとは留学への期待や不安と共に異文化適応について話し合いました。オリエンテーションをきっかけに学内で留学生たちと挨拶を交わしたり、留学報告書で学生たちが海外生活を苦労しつつ楽しんでいる様子を毎月読むのはささやかな喜びです。学生たちには失敗を恐れずやりたいことに挑戦してほしいと思いますし、必要な時には、その体験を言葉にするお手伝いが相談室でもできればと準備しています。

なお、相談室では学生に関する保護者からのご相談も承ります。大学サイトで相談室ページ(QRコード参照)をご確認いただくか、お電話・メールで直接ご連絡ください。ご一緒に考えましょう。

直通電話 / 055-222-5640
メール / gakusei-soudan@yamanashi-eiwa.ac.jp



保健室

誰もが利用しやすい保健室を目指して

保健師 雨宮 加奈

保健室は講義棟入口や事務棟に近く、外廊下に面した場所にあります。他大学の保健室を見ると、奥まった場所にあたり、2階以上にあることも多いので、本学の保健室は講義棟内外のどこにいてもアクセスしやすく、非常に恵まれた場所にあると言えます。立地条件も良いため、多くの来室があります。2023年度は延べ1600名以上の利用がありました。その内1割は保護者の方からご連絡ご相談をいただいております。

保健室利用で一番多かった学生対応は、心身に関する相談です。偏頭痛や胃腸障害などの内科疾患や婦人科疾患等の身体的悩みから、授業の困りごと、学校生活に対する悩みなど相談内容は多岐にわたります。

困りごとの中でも、発表やグループワークが苦手、指名されても発言できないなど学修に関する相談は少なくありません。ここ数年、オンライン中心の授業に慣れてしまっていたり、高校までの授業形態から、対面で発言を求められる授業、受講者の前で発表する授業へという変化に適応することは簡単なことではないと推察します。むしろ変化に際して立ち止まったり、立ちすくんだりする方が自然ではないかと思えます。深い海に住む魚はいきなり水面に出しまうと生きていられませんし、高い山に慣れていない人間がいきなり高い山に登ると高山病になってしまいます。このような時には、無理せず順応できるまで様子を見たり、焦らずゆっくり過ごしてほしいと思います。できれば、困りごとは一人で抱え込

まず相談して欲しいと思います。

また、季節ならではの来室もあります。4月の時期は、「〇〇教室の場所はどこにありますか」と尋ねてくる新入生には道案内をしますし、梅雨の時期は「服が濡れてしまった、タオルはありますか」と、タオルや替えの服、ドライヤーの出番が多くなります。寒い時期は「ひざ掛けありますか」とヒートテックの大判ひざ掛けが大活躍です。学生生活のちょっとした困りごとにも対応しています。

今後もどんな方にも利用しやすい保健室を目指していきたいと思えます。



保健室は講義棟入口近くにありますが

「元通り」と「進化」

私たち学生会は、会計・企画・書記・広報の4つの部署構成のもと、現在29名で活動しております。学生の皆さまからいただいた学生会費を使用して、各サークルの予算管理やイベントの企画・運営を行っています。今年度学生会長を務める上で、私はコロナ禍前の活気ある山梨英和大学への「元通り」とその先にある「進化」を目指して活動しています。大学生活の色合いを豊かにする学生会主催のイベントを活発に、そして参加しやすい環境を整えることが、私たち学生会にできる学生の皆さまのための活動だと思っています。イベントの企画・運営は時間と労力が必要なものであり、有志で集まってくれたメンバーとはいえ、積極的に活動してくれている学生会メンバーには団体の一員として感謝しています。だが



学生会会長 星野 萌花

からこそ、まずは学生会のメンバーが働きやすい、参加したいと思えるイベントや会議の雰囲気作りを心がけて活動してきました。

今年度大学内は大きく加速してきていると感じています。コロナを乗り越え、人と人の関係が密になってくることで、学年を超えた交流や、学生が自主的に動いてサークルを立ち上げることも増え、「元通り」に大きく近づいていると思います。また今年度の学生会では他のサークルや団体との交流を増やし、今までのイベントを拡大しています。前期ではサークルブースとサークルの紹介を行い、七夕フェスティバルでは5団体の発表、浴衣等の着物を着用して一日を過ごすイベントも復活できました。今後は学園祭での出展やハロウィンイベント、焼き芋イベント、クリスマス祝会などを予定しており、いずれも昨年度からのレベルアップを検討しています。またこの他にもサークルの勧誘ポスターを常時貼り出したり、学生総会等で学生会から情報を発信することで、全体で連携を取っていくことも大切にすべきだと考えています。

終わりに、恵まれた環境で私たち学生会が活動できるのは多くの方のお力添えがあってのことです。ご理解やご協力に感謝しながら、今年度も最後までより良い大学づくりのために活動していきたいと思います。今後とも学生会をよろしく願いいたします。

最高の2日間のために

私たち紅楓祭実行委員会は、11月に行われる紅楓祭の企画・運営をメインに紅楓祭に関わる活動全般を担っています。30名ほどで人数は少ないですが一人一人が自分の仕事に責任を持ち、最高の紅楓祭を作るために頑張っています。

今年度の紅楓祭は昨年度と同様に2日間、入場制限のない形で開催します。私が1年生の時は1日のみで人数制限を設けた形での開催でした。運営側としては楽しく活動できましたが、やはり来場者の数が少なく寂しさもありました。そして昨年の紅楓祭はコロナ禍前のように2日間、一般公開という形で開催することができました。私が1年生の時とは異なり、多くの方が自由に参加して楽しんでくださりました。私はビンゴ大会の司会としてステージに上がりましたが、ステージ前を埋め尽くす観客の多さにテンションが上がってしまいました。

そして今年の紅楓祭です。昨年の12月に先輩方から引き継ぎ活動してきました。今年のテーマは「彩(いろどる)」です。このテーマには従来の学園祭にとらわれず、新しい風を吹き込み、「自分たちの色で彩る」という新しい挑戦に対する気持ちが込められており、「たくさんの人に楽しんでほしい!」という想いもあります。このテーマのもと来場者の皆様に楽しんでいただくのはもちろんのこと、私たち自身も楽

学実委員長 興水 佑一郎

しめる紅楓祭にしていきたいと思っています。私自身がこれまで何かの長になったことがなく、今回の委員長という立場をしっかりとこなすことができるのかという不安もありますが、自分を信じて乗り越えてみせます。昨年度より実行委員会の人数が10名ほど少なくなっていますが、実行委員会は頼りになるメンバーが揃っているので一緒に頑張っていきたいと思っています。

最後になりますが、日頃よりお力添えいただいている多くの方々へ心より感謝申し上げます。今後とも紅楓祭実行委員会をよろしく願いいたします。



教授(特任) 永井 英司

自然環境(特に広大な葡萄畑)に恵まれ囲まれた、本学で、皆様との交わりが許され、学生達と学修の時が与えられました事を感謝いたします。

新参者ですので宜しくお願い致します。

本学のAPに「キリスト教精神に基づく教育」、「心のケアのあり方を学ぶ」等々が謳われている記事を読みました。

後援会の皆様と教職員、学生が『心を、精神を、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』という主イエスの教えに立って、共に学び支え合う姿を思い描きながら、日々の歩みを続けています。

聖書には「涙と共に種を蒔く者は、喜びの歌と共に刈り入れる」ことが述べられていますが、さらに素晴らしい事として、老若男女が共に集い「笑さざめく」様子が描かれています。「悪い言葉ではなく、ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語る(エフェソ4:29)」事を通して、本学(教育共同体)の一員となれる事を願っています。ご教導をお願い申し上げます。



新任 教員紹介

助教 赤城 知里

この4月に着任いたしました。山梨県に住むのは初めてですが、ぶどうや桃の実が日々大きくなっていくのを眺めながら通勤し、学内ではつばめの成長を見守りと、いつの間にか忘れていた、人として大切な何かを取り戻した気分です。このような自然豊かな環境でご縁をいただき心より感謝しております。



私は、従来のキャリア教育に臨床心理学的観点を取り入れることにより、若者の成長を支援することをテーマに研究しています。

また、臨床家の育成にも興味があり、前期授業では心理演習Ⅰを担当しましたが、山梨英和大学の学生さんは臨床に対する想いが熱く、演習を通じて、クライアントのために臨床家として何ができるのか?を一緒に深く語り合うことができ、私自身も気づきの多い時間でした。

引き続き、学生の皆さんと双方向で対話をしながら、臨床家の育成に精進していきたいと思っております。

助教 天野 早紀

2024年度より着任いたしました天野早紀と申します。私は、『万葉集』を中心とした上代文学を専門としています。また、文学作品の外的な要素として、作品を構成することば(口頭言語の記録なのか最初から文字で作ったものなのか)、また本の形態(紙の材質、頁単位の冊子本なのか画面が連続する巻子本なのか)などにも関心を持っています。山梨英和大学では、学生のみなさん全員がMacBookを持ち、ICTスキルを磨き、また普通の大学生生活全般もペーパーレスが主流です。しかし講義では「古いもの」「アナログ」である和紙や古典籍の現物にも積極的に触れあい、また現代のデジタルの感覚と比較する独自の観察眼によって、全く新しく魅力的な考察も展開してくれます。領域横断的なカリキュラムを通して柔軟な視点や考え方を身に着けているからこそでしょう。そんな学生のみなさんと講義を通してお話をすることで、私自身も研究の粹組に凝り固まることなく常に視野を広げることができていることを実感しています。学生と教員が交流しともに学びあうことができる教育の場・在り方を、大事に育んでいきたいと思っております。



教員紹介



学長
朴 憲郁



副学長・人間文化学部長
教授 難波 道弘



副学長・人間文化研究科長
教授 高橋 寛子



副学長
教授 井上 征剛



宗教主任
教授(特任)永井 英司



教授(特任)
小林 一之



教授
小林 真理子



教授
小菅 健一



教授
黒田 浩司



教授
李 尚珍



教授
佐柳 信男



教授
山本 明歩



准教授
新居 みちる



准教授
三井 さや花



准教授
槻館 尚武



専任講師
Danny W. Brown



専任講師
桑本 佳代子



専任講師
劉 楠



専任講師
根木 英彦



専任講師
大井 奈美



専任講師
杉村 篤志



専任講師(特任)
高見 研一



助教
赤城 知里



教員情報



助教
天野 早紀



助教
河本 毬馨



助教
野村 魁



英和の学びの
案内人

日 時：2024年5月18日(土)14時30分～15時00分
 場 所：山梨英和大学 101教室
 挨 拶：飯島正敏 後援会会長
 朴 憲郁 後援会名誉会長 (学長)

後援会長ならびに事務局から、配布資料に基づき、(1)～(5)までの議案について説明がありました。

議 事：

1. 山梨英和大学後援会総会の議題及び運営について
 1. 2023年度山梨英和大学後援会事業報告について
 2. 2023年度山梨英和大学後援会会計決算について
 3. 2024年度山梨英和大学後援会役員について
 4. 2024年度山梨英和大学後援会事業計画について
 5. 2024年度山梨英和大学後援会会計予算について



2024年度 山梨英和大学後援会事業計画

4月2日(火)	山梨英和大学後援会1年生部会開催 (山梨英和大学入学式後) 監事及び1年生理事選出	9月7日(土)	保護者懇談会共催(補助活動補給費)
5月18日(土)	山梨英和大学後援会理事会・総会開催 2023年度事業報告・2023年度決算 2024年度役員・2024年度事業計画及び 2024年度予算	11月2日(土)・3日(日)	第23回紅楓祭補助(補助活動補給費)
8月	会報「かけはし」第53号発行(印刷費他)	11月～3月	売店(コンビニ)・学食運営費補助(補助活動補給費) 就職活動諸費協力金支出(厚生就職費) 大学広報活動費支出(広報補助費) 山梨英和学院へ寄付(寄付金)
		3月14日(金)	卒業記念品(校章入り名刺入れ)贈呈(卒業記念品費)

2024年度 山梨英和大学後援会役員名簿

名 誉 会 長	朴 憲 郁 (学長)	
名 誉 副 会 長	高 橋 寛 子 (副学長)	
	井 上 征 剛 (副学長)	
	難 波 道 弘 (副学長)	
名 誉 会 員	飯 島 正 敏	
会 長	飯 島 正 敏	
副 会 長	水 谷 繁 夫	—
監 事	藤 巻 英 人	佐 藤 俊 一
会 計	望 月 一 志	—
4 年 理 事	河 住 悦 久	小 川 智 也
	水 上 直 樹	深 沢 強 志
	—	—
3 年 理 事	芦 川 て み	茅 野 久 隆
	小 林 徹 三	小 松 敬 明
	—	—
2 年 理 事	香 山 浩 子	長 田 あ ゆ み
	戸 梶 文 恵	依 田 京 子
	—	—
1 年 理 事	平 井 裕 明	宮 城 隆
	山 田 勝 博	吉 岡 眞
	—	—

2023年度 山梨英和大学後援会決算書

2023年度 山梨英和大学設備補助積立金会計決算書

収入の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前年度繰越金	4,812,428	4,812,428	0	
前期末未収入金額	0	0	0	
前期会費	5,560,000	5,520,000	40,000	@10,000×552名
後期会費	5,410,000	5,330,000	80,000	@10,000×533名
雑収入	40	48	△8	利息
合計	15,782,468	15,662,476	119,992	

支出の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差異	摘要
会議費	10,000	1,806	8,194	理事会茶菓子代
消耗品費	30,000	13,640	16,360	角2封筒代(1,000枚)
用品費	100,000	0	100,000	
通信費	270,000	68,455	201,545	理事会通知郵送料、会報かけはし郵送料 他
印刷費	300,000	255,750	44,250	会長名刺印刷代、会報印刷代
奨学費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	1,112,000	1,104,000	8,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×552名)
補助活動補助給費	1,638,000	1,557,179	80,821	紅楓祭補助(@1,000×619名)学食運営費補助(売店(コンビニ)運営費補助、保護者懇話会運営費補助(案内送付)552名)
厚生就職費	1,200,000	1,200,000	0	就職活動諸費協力金
広報補助費	1,200,000	1,200,000	0	大学広報活動補助
福利費	70,000	15,000	55,000	甲慰金(学生保護者2名)
卒業記念品費	455,000	419,650	35,350	卒業記念品(150個)
寄付金	4,328,000	4,264,000	64,000	山梨英和学院へ寄付(後期会費納付者数@8,000×533名)
雑費	10,000	17,455	△7,455	会長名刺レイアウト変更代、かけはし学生イラスト謝礼(6名)他
予備費	100,000	0	100,000	
次年度繰越金	4,959,468	5,545,541	△586,073	
合計	15,782,468	15,662,476	119,992	

2024年度 山梨英和大学後援会会計予算書

収入の部

(単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
前年度繰越金	5,545,541	4,812,428	733,113	
前期末未収入金額	0	0	0	
前期会費	5,010,000	5,560,000	△550,000	@10,000×501名
後期会費	4,770,000	5,410,000	△640,000	@10,000×477名
雑収入	939	40	899	(2024年5月1日現在普通預金金利0.02%)
合計	15,326,480	15,782,468	△455,988	

支出の部

(単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
会議費	10,000	10,000	0	理事会・総会茶菓子代 他
消耗品費	30,000	30,000	0	ハガキ用紙、角2封筒代(2,000枚)他
用品費	70,000	100,000	△30,000	
通信費	150,000	270,000	△120,000	理事会・総会通知郵送料@84*501名) 後援会報郵送料@140*501名) 他
印刷費	300,000	300,000	0	後援会会報印刷代(26万)、資料印刷代他
奨学費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	1,002,000	1,112,000	△110,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×501名)
補助活動補助給費	1,576,000	1,638,000	△62,000	紅楓祭(57.6万@1,000×576名)、学食運営費補助(50万) 売店(コンビニ)運営費補助(50万)
厚生就職費	1,100,000	1,200,000	△100,000	就職活動諸費協力金(就職指導・企業訪問・就職強化費)
広報補助費	1,100,000	1,200,000	△100,000	大学広報活動補助
福利費	70,000	70,000	0	会員・学生慶弔費
卒業記念品費	464,000	455,000	9,000	卒業記念品@2,900(税込)×160個(前期卒業含む)
寄付金	3,816,000	4,328,000	△512,000	山梨英和学院へ寄付(後期会費納付者数@8,000×477名)
雑費	20,000	10,000	10,000	かけはし学生執事謝礼他
予備費	70,000	100,000	△30,000	
次年度繰越金	5,548,480	4,959,468	589,012	
合計	15,326,480	15,782,468	△455,988	

2024年度 山梨英和大学設備補助積立金会計予算書

(1) 普通預金の部

収入の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差異	摘要
前年度繰越金	16,121,744	16,121,744	0	
設備補助積立金(定額繰入)	1,112,000	1,104,000	8,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×552名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
現金等利息	136	135	1	利息
合計	17,233,880	17,225,879	8,001	

支出の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差異	摘要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替) 定期積立金設定日:2009年5月21日 定期積立金額:8,000,000円 期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	17,233,880	17,225,879	8,001	
合計	17,233,880	17,225,879	8,001	

(2) 定期預金の部

(単位：円)

預入日	満期日	金額	自動継続金額	利息	利息合計	摘要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	(預金期間年利率0.2%)
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	(預金期間年利率0.06%)
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	(預金期間年利率0.025%)
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	(預金期間年利率0.025%)
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	(預金期間年利率0.025%)
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	(預金期間年利率0.025%)
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	(預金期間年利率0.025%)
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	(預金期間年利率0.01%)
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	(預金期間年利率0.01%)
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	(預金期間年利率0.01%)
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	(預金期間年利率0.002%)
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	(預金期間年利率0.002%)
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	(預金期間年利率0.002%)
2022年5月21日	2023年5月21日	8,029,087	8,029,223	136	29,223	(預金期間年利率0.002%)
2023年5月21日	2024年5月21日	8,029,223	8,029,360	137	29,360	(2024年5月21日(満期日)(※))

* 預金期間年利率0.002%

(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合)

(単位：円)

区分	予算	決算	差異	摘要
普通預金	17,233,880	17,225,879	8,001	
定期預金	8,029,223	8,029,360	△137	2024年5月21日(満期日)(※)
合計	25,263,103	25,255,239	7,864	

* 預金期間年利率0.002%

(1) 普通預金の部

収入の部

(単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
前年度繰越金	17,225,879	16,121,744	1,104,135	
設備補助積立金(定額繰入)	1,002,000	1,112,000	△110,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×501名)
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0	
現金等利息	2,917	136	2,781	(2024年5月1日現在普通預金金利0.02%)
合計	18,230,796	17,233,880	996,916	

支出の部

(単位：円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
設備補助支出	0	0	0	
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替) 定期積立金設定日:2009年5月21日 定期積立金額:8,000,000円 期間等:1年、満期自動継続
次年度繰越金	18,230,796	17,233,880	996,916	
合計	18,230,796	17,233,880	996,916	

(2) 定期預金の部

(単位：円)

預入日	満期日	金額	自動継続金額	利息	利息合計	摘要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	
2022年5月21日	2023年5月21日	8,029,087	8,029,223	136	29,223	
2023年5月21日	2024年5月21日	8,029,223	8,029,360	137	29,360	
2024年5月21日	2025年5月21日	8,029,360	8,029,497	137	29,497	(2025年5月21日(満期日)見込額(※))

* 預金期間年利率0.002%

(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合)

(単位：円)

区分	本年度予算額	前年度予算額	差異	摘要
普通預金	18,230,796	17,233,880	996,916	
定期預金	8,029,497	8,029,223	274	2025年5月21日(満期日)見込額(※)
合計	26,260,293	25,263,103	997,190	

* 預金期間年利率0.002%



9月 24日 後期・第3クォーター授業開始
後期始業礼拝

1月 8日 授業再開
31日～ 春季休業(3/31まで)

10月 1日～ 後期学費・後援会費等納付期限
16日 半日修養会(1・2時限通常授業なし)

2月 21日 成績発表
(通年・後期・第4クォーター科目)

11月 2-3日 学園祭(紅楓祭)
19日 第4クォーター授業開始
26日 クリスマスツリー点火祭

3月 13日 卒業礼拝
14日 学位記授与式

12月 13日 成績発表(第3クォーター科目)
クリスマス礼拝(1・2時限通常授業なし)
28日～ 冬季休暇(1/4まで)

大学ホームページ ▶



山梨英和大学【後援会事務局】 〒400-8555 山梨県甲府市横根町888 / TEL:055-223-6020

Maple College

2024年度 後期開講講座のご紹介

文学、芸術、心理学、社会、地域、自然、健康などさまざまな分野で、最先端をいく講師の先生方をお招きしています。コロナ禍に象徴されるように不安が蓄積されていく時代に、世界から吹いてくる新鮮な空気に触れる機会として、山梨英和大学メイプルカレッジの各講座を、ぜひご活用ください。

山梨県の昆虫と自然環境



講師 富樫 和孝 北杜市オオムラサキセンター館長

豊かな森と清らかな水に恵まれた山梨県には多様な昆虫が生息しています。しかし、絶滅の危機に瀕している種も多く、その保護が急務です。本講座では、オオムラサキなど里山の昆虫の魅力や、生息に必要な環境、そして現状について紹介し、これらの貴重な生物との共存の在り方について考えていきます。

日程(全2回) ①10/19 (土) ②10/26 (土)
時間 13:00~14:30 受講料 2,000円 申込締切 10/7 (月)

子どもと大人の「育ち」について考える発達心理学



講師 佐柳 信男 本学教授

「人はどのように育つのか」を念頭に発達心理学の基礎的な知識を学んでいきます。発達の仕事を知ることで、子どもから大人まで幅広い年齢層の人の育ちについてヒントが得られるでしょう。標準的な発達の仕組みに照らして発達障害についても学びます。

日程(全3回) ①10/28 (月) ②11/11 (月) ③11/25 (月)
時間 19:00~20:30 受講料 3,000円 申込締切 10/14 (月)

山梨英和学院135周年記念 こども園連携講座



講師 佐々木 由美子 東京未来大学こども心理学部教授
専門は保育、子どもの文化・文学、絵本や幼年文学、紙芝居を中心に、子どもの物語受容や子どもの育ちと文化について研究。

子ども・言葉・絵本—子どもの育ちを考える

絵本を開いたとたん、物語の世界にのめり込むように入っていく子どもたち…。子どもは絵本をどのように受容しているのでしょうか。絵本はなぜ、こんなに子どもたちをひきつけるのでしょうか。子どもと絵本の関わりを通して、子どもの育ちと、絵本や物語の役割などについて考えていきたいと思います。

日程 11/9 (土) 時間 13:00~14:30 受講料 1,000円 申込締切 10/30 (土)

お申込み
お問合せ

山梨英和大学 メイプルカレッジ

☎ 055-223-6034

✉ extension@yamanashi-eiwa.ac.jp

受講料の割引について

本学院中高生・大学生・大学院生 無料
本学院園児・中高生・大学生の保護者/短期大学・大学卒業生 2割引
メイプルメイト(要入会) 1割引(入会料1,000円)



大学サイト
メイプルカレッジ